

平成20年度 第2回 平塚市博物館協議会 会議録

開催日時

平成20年11月14日(金)10時~12時

開催場所

平塚市博物館 特別研究室

会議出席者(敬称略)

会長 江藤 巖

委員 立山 洋典、森島 啓子、牧野 久実、井上 太郎、片山 興大

事務局 教育長、明石館長、井上館長代理、鷹館長代理

会議の概要

1 開会あいさつ

2 教育長あいさつ

3 館長あいさつ

4 会長あいさつ

江藤会長:あいさつの後、本年度第2回の協議会ですが協議員6名全員出席で会議が成立しました。

3 議 題

(1) 報告事項について

事務局から協議会説明資料により説明。

〔質疑応答〕

委員:職業体験ですが、中学校は最初2年生でしたが今は1年生になったみたいです。どこの学校でもやっているようで今年はおうちの小学校にも来ます。また、きゅうり農家にかなりの数の子が体験し、生涯学習に関連してやっているようです。

委員:中学生の職業体験というのは平日ですか?

委員:そうです。

委員:私どもの学生がインターンシップでやらせて頂く場合土日になる場合が多いので日程が合わせられれば博物館の方の手間が減らせるのではないかと考えたものですから。

事務局:こちらの都合に合わせて結構です、と学校から文書頂くんですけども怪我させてもいけないし、目を離すと遊びだしたりするので1年生だと長いようにも思えます。どういう風に関わっていけばいいか難しいことがあります。

委員:もともとは商店街のお手伝いとか農家の手伝いだとかそういう感じでしたが博物館のような施設に来るようになったのは多分最近の傾向だと思います。

委員:参加者がいろんな学校から集中する話が出ましたが、学校でも多分カリキュラム構成上、だいたいこの時期に一緒になっているんじゃないかな、という事が一つ。それと多分学校で出されるメニューを子供達が選択をしていく中に博物館も対象になっている、という流れではないでしょうか。

事務局:出来ればこちらで仕事を用意できるような時期に来て頂けるのがいいのですが、日にちが指定されています。

事務局:学年のうちの何名かだけが欠けてしまうととかそういう事になって学校の対応も難しいのか

も知れません。

委員：これは時期的には集中してますか？

事務局：そうですね、丁度今頃の時期と1月です。

委員：プラネタリウムすごい人気があります。解説のボランティアを火曜日に受けていますが、好ましいのは父親が引率する子供、たいてい母親と来る子供が多いんですが月曜日が休日の日に父親が子供を連れてくる。それで「プラネタリウムどうですか。」なんて声を時々聞くんですね。制約があって難しいでしょうが父親が引率するのはすごい意味があると思います。展示を見て帰るケースもありますけれどもそういう声もあるよ、って事をどこかに置いて頂けたら、と思います。

委員：プラネタリウムの事で盲学校からの参加もあったと聞きましたけれど特別の工夫をなさるのですか？

事務局：先生と色々打ち合わせをします。音や強い光は感じたりしてくれるので、太陽に見立てたスポットライトで照らして太陽の動きを出して「今、南の空にいる、お昼だよ。」とかやります。プラネタリウムの部屋の中で感覚を使って、星や太陽の動きというのを認識してもらう。それから、触ってもらえるものを用意するんですが、例えばワニの剥製なども喜ぶので色々な動物の剥製を出したり、2階から3階に上がる踊り場の太陽系の模型展示を触って大きさを比較できるようにしています。それから「太陽はあったかい」とか、「太陽から遠い星は冷たい」とか、感じられるように中に冷却器を仕込んであります。プラネタリウムと言いましても現実には普通の番組を見せるってわけにはいかないです。

委員：盲学校の経験がありますが、ドームの中に入る、プラネタリウムの部屋の中に入る事自体が、すごくいい経験だと思います。そういう雰囲気味わうという。日常生活で話題になった時に、子供達が「プラネタリウムこんなだったな。」という、そういう経験をつむ事は大切だと思います。それと子供の中に全盲だけではなくして、明暗がわかる、弱視の子も多分入ってると思います。そういう子供達についてはちょっとした配慮をとれないながら、普通の子と同じように接する、そういう事がすごく大切だなと思います。こういう機会を学校にも呼びかけて、増やして頂けるといい教育効果があがるんじゃないかと思います。

事務局：こちらから呼びかけないと知って頂けない部分はあります。

委員：中学生の博物館参加が極端に少ないと書いてありますが、中学生が多かったと思ったのが、夏の五領ヶ台の貝塚の特展でした。この時には地元の金旭中学生が、自由研究の宿題で取り組んでいたようにおもいます。金旭中学の体育祭に呼ばれたおり、母親から声をかけられて「ご説明ありがとうございました。」なんて言われたりして、いい気分させてもらいました。学校の教育のカリキュラムとうまく会うとすごく呼び込めるのかなと思っています。今回の金目川展も、そういう時期にやれば千客万来だったかと。

市内の小学校4年生の社会科がちょうど今、金目川をやってる所なんですよ。

事務局：ちょうどそういう単元の学習時にうまくぶつけられると確かにいいんですが。

委員：小学校4年の孫に私が始終博物館に出入りしてる事を知ってまして、「じいじい、なぜ教えてくれなかったの？」としかられました。

委員：メモ帳を持った子に2、3出会いました。親と一緒に親の方が喜んで見ていました。

事務局：中学生などがたくさん来ていた頃は学校から離れて博物館に遊びに来ていて、私どもとつながりがあったんですが、最近はどうも出来ない。学校の授業だけでなく、隠れ家の様な面白いところ見つけたという様な感覚に子供達をもっていけないかなと。そうすると自分達で調べたいとか、そういう事にもつながっていくんだろうと思います。なかなかむずか

しいです。

委員：そういう学芸員の方達との接触がきっかけになる事もあるんですよね、いいお兄さんお姉さんがいるからもういっぺん行こうっていう。

事務局：個人的なつながりと言うのが結構出てくるようになります。

委員：長く続くようなね、小学校の時に行ったのが中学校、高校と続き、将来は博物館に勤めたい、なんて言い出すような。そういう子の小さい時の事を聞くとそういうケースが多いような気がします。

委員：今回の金目川の特別展、学校で子どもたちにすぐ話しました。ただ学校の計画はだいたい5月頃に一年間の計画が出来てしまいます。3～5年生が主に校外学習として外に出るんですが、3年生は市内見学とか施設見学、4年生も市内見学、5年生は日産車体の工場見学を兼ねて来ます。たいがいどの学校でも3学年が博物館に来るようです。私が声かけたらもう4年と5年はこの金目川展に合わなかったんです。3年生は博物館に興味のある先生がいますから。連れて来てくれます。一つのきっかけとしては、こういう計画が4月頃までに学校にありるといいかなと思います。

事務局：今の年間プログラムは間に合います。4月1日までに年間の大きな事業を印刷して配っておりますので、その中に特別展のタイトルと期間もありますので、学校等お配りするようになりたいと思います。

委員：さしでがましいですけど研究所と、指導室と、冊子があるんですよ、一年間の。講座とか。学校の方が積極的に動けばいいのにと 생각합니다。

委員：金目川展を拝見させて頂いてとても素晴らしい内容なんですけども、例えば小学校3年生がくる場合、ちょっと解説文がむずかしいかなっていう気がしたんですが。

委員：4年生だと、勉強してますから感覚でわかる部分もあると思います。

事務局：確かに今の展示の解説はどちらかという大人向けという形で、決して小中学生に見せるような解説とは言いがたいですね。もう少し易しくすれば一般の方もわかりやすいと思います。どうしてもそういう所に視点がいかない所が多々あるかと思っておりますので、それは課題として伝えておきたいと思っております。

委員：金目川展すごい面白いんですがいくつかの分野の方々が別々のケースに展示をされているのがすごくもったいないなという気がします。例えば鮎漁の民具。これは生物担当がそこで鮎の習性を展示してくれたら民具との関係がすごくよく分かるのにと、そういうのが分かれている展示がもったいないな。もっと膨らませる事が出来るテーマだけに凄くもったいない。これ一回だけで終わらせたくないな。ここからも研究費がとれるんじゃないかな。予算が厳しいというお話もありましたけど、ああいうテーマだったら文部科学省とか国土交通省からとかもお金が貰えるんじゃないかと思うんですが。それで展示ケースを少し修復するとかどうかと思いました。

事務局：良い案ですね。申し遅れましたが今日この会議が終わった後に金目川の博物誌展を学芸員が解説します。

(2) 今後の事業等予定について

事務局から博物館祭りと春期特別展について協議会説明資料により説明。

〔質疑応答〕

委員：先ほどの1の議題について、思うに僕の経験からかなり具体的な計画を1年分立てて予算化して実施されているように見受けられますが。

事務局：予算は確かに毎年今くらいから2月位までに年間計画を作り配分しています。その中に、1回くらい、時期はそれほどはっきりさせずにおく部分もあります。その費用もこちらの

ある額でお願いする事もあります。東海大学の学生は、勉強と言うことでやってもらっています。

委員：そういう事業が1年間通して出来るって言うのは素晴らしいと思います。

それからなかなかこちらの方に来れないのでいつもホームページで勉強しているんですが応援ページというものがあります。あの応援ページは博物館に関係ありませんということで見てみると博物館の学芸員の方が関わっているという気がするんですが。

事務局：その方は川崎の方で博物館の事業や行事にいくつか出ておられて、そういう所での内容を公式のホームページに書く事とは違う見方や楽しい事を載せてくれていました。こちらは内容に関して深くかかわってはいませんが、ある程度自由に作ってもらっています。

いろいろなサークルに所属されていて、サークルの活動記録としてホームページで紹介するというやり方です。それぞれのサークル活動をまとめてその資料をCDやDVDにして寄贈してくれる、そういうことが我々としては助かる。全部自主的にやっていただいています。博物館祭りの時は自分でPCを持って来て自分で収録したものを会場で流してくれています。

(3) 協議会の開催予定について

次回は3月27日(金)とする。(予定)